



占領期の新聞を... 放送メディア界

『新聞協会報』

【全七巻・別冊】
【復刻版】

文庫文献類従 77 監修・解題—井川 充雄

占領期、新聞界も連合国最高司令官総司令部 (GHQ/SCAP) の監督下にあつて

改革を余儀なくされた
激動の時代

占領期の新聞をはじめメディア業界全体の動向をつぶさに見て取るための第一級資料

金沢文圃閣

この時期の新聞業界の動向はその後の日本の新聞のあり方を大きく規定

書誌・出版史・書物メディア史のシリーズ *文庫文献類従 77*

占領期の新聞・出版・ 放送メディア界—『新聞協会報』

【全七巻・別冊】
【復刻版】

監修・解題—井川 充雄 (立教大学教授)
造 本—A4 判上製/A5 判並製 (別巻のみ)
総約 2,150 頁
揃 価—188,000 円 (配本毎、別冊のみ分売可)
資料提供—日本新聞協会

【第一回配本】2020年11月
配本揃価 50,000 円 978-4-910363-07-3

第一巻 (294 頁)
『新聞協会報』372～441 号
(1947年3月3日～48年6月28日)
第二巻 (310 頁)
『新聞協会報』442～536 号
(1948年7月5日～49年6月29日)

【第二回配本】2021年5月
配本揃価 37,000 円 978-4-910363-10-3

第七巻 (306 頁)
『新聞協会報』826～894 号
(1952年5月1日～12月25日)
別冊 (A5、約250 頁)
※解題・総目次・著者名索引

【第三回配本】2021年11月
配本揃価 51,000 円 978-4-910363-08-0

第三巻 (308 頁)
『新聞協会報』537～612 号
(1949年7月2日～50年3月30日)
第四巻 (320 頁)
『新聞協会報』613～689 号
(1950年4月3日～12月25日)

【第四回配本】2022年5月
配本揃価 50,000 円 978-4-910363-09-7

第五巻 (290 頁)
『新聞協会報』690～758 号
(1951年1月1日～8月30日)
第六巻 (290 頁)
『新聞協会報』759～825 号
(1951年9月3日～52年4月28日)

【※収録資料は欠号含】

◎別冊は二回配本に収録
978-4-910363-11-0 (別冊のみ 12,000 円)
解題・総目次・著者名索引

本書には各新聞社現況が掲載、そこから個別新聞社の情報が得られる。重要な人事情報、すなわち既存新聞社では戦争責任問題から大幅な人事刷新が行われ、「外地」(植民地)から多くの新聞人が復帰、その結果、過剰人材は新天地を求め、新興紙や出版界、広告界、また始動したばかりの民間放送分野に進出。『戦時戦後の新聞メディア界—『日本新聞報』附、『満洲新聞協会報』』(井川充雄 編・解題、金沢文圃閣、2015～16年)に収録された前身の『日本新聞報』などと併用すれば、戦前から戦後への新聞・出版・放送メディア・マスコミ業界全体の人の移動を見る際にもさまざまな情報が得られるだろう。

井川充雄 編・解題/佐藤卓己 推薦
『戦時戦後の新聞メディア界—『日本新聞報』附、『満洲新聞協会報』』
全6巻 総2,092 頁 150,000 円 [冊子版品切 ※小関電子アーカイブ収録予定]
※本書前紙『日本新聞報』を収録。
本書と関連しながら戦時・戦後を見渡す好資料。



類縁書籍

井川 充雄 編・解題
『『日刊 新聞時代』—新聞メディア界の新聞』
全7・別巻 総2,594 頁 178,000 円

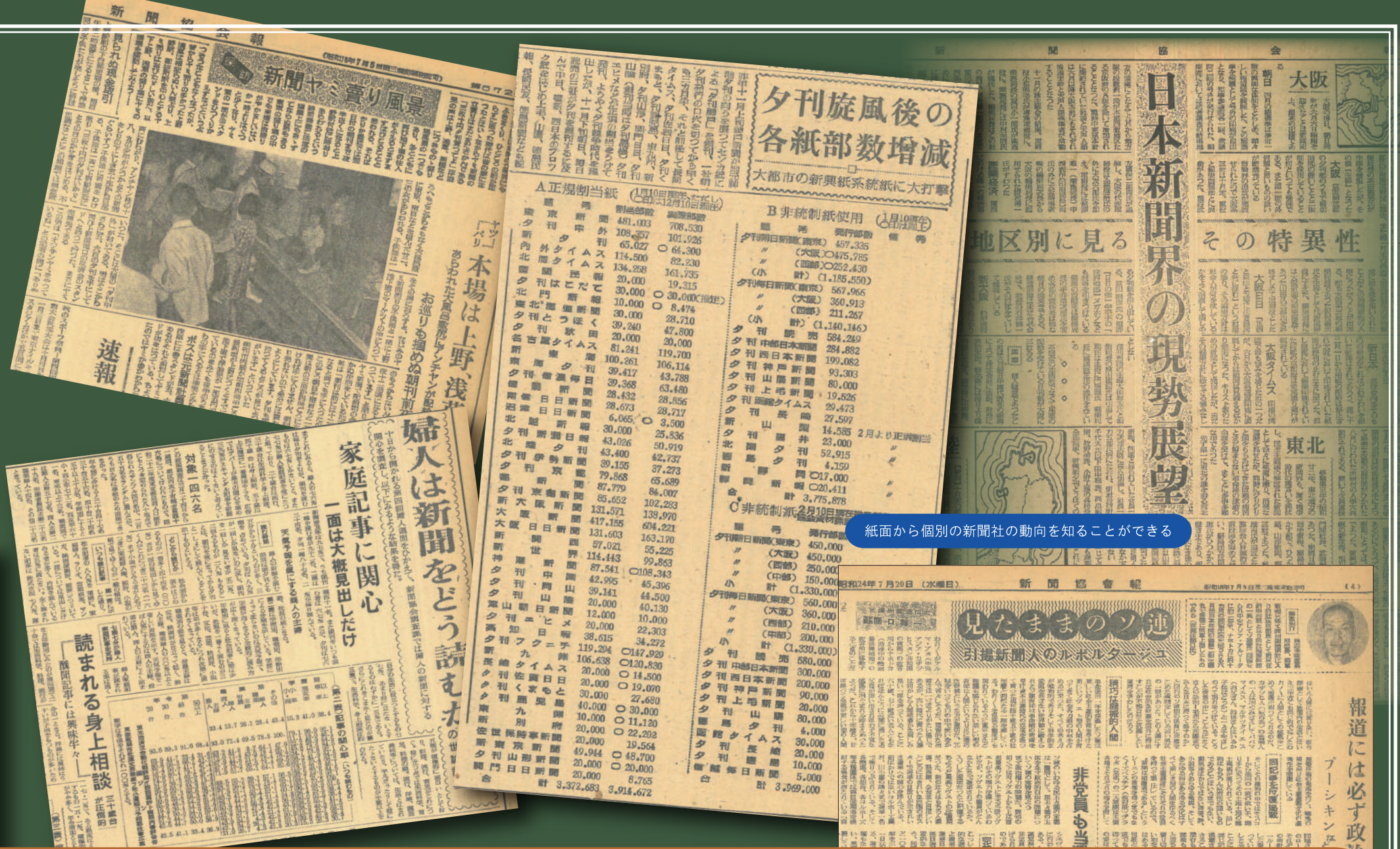
井川 充雄 編・解題
『戦時戦後の『文化情報』—新聞・出版・印刷・紙業・内外情報之新聞』
全6巻・別冊 総2,288 頁 178,000 円

井川 充雄 編・解題
『台湾ラジオ資料集 附、南方軍宣伝報道検閲詳報』
全6巻・別冊 総1,174 頁 68,000 円

Kanazawa Bumpokaku
金沢文圃閣
〒920-0867 金沢市長土堀2-16-30
Tel 076-261-8884 Fax 233-3111
□書店様へ…ありがとうございます
直接小関までお申し込みください
図版は本書より
価格は税別 052/01/4000

本書の意義

- 一、占領期には、多くの新興紙が登場した。戦時期における新聞統合によって廃刊や統合に追い込まれた新聞が復刊したものや、まったく新たに創刊されたものなど、さまざまなものがあり、それらの情報が本書によって追跡可能
- 二、民間情報教育局新聞課長であったインボデンの寄稿や講演などが掲載されており、また公式・非公式の指導や監督が『新聞協会報』の紙面を通じて、全国の新聞社等に伝達されていたのである。本紙はGHQの新聞政策を各新聞社に伝える役割を果たしていた。
- 三、新聞用紙の供給が僅少な中で、既存の大手新聞社にとっても新興の中小新聞社にとっても、新聞用紙割当政策は、その新聞社の死命を制するだけの重い意味を持っていた。用紙割当は、政府内に設置された新聞出版用紙割当委員会が掌ったが、日本新聞協会の事務局も大きく関与していた。それも本書には、新聞用紙の生産状況や新聞用紙割当政策の動向が統計的に掲載されている。



紙面から個別の新聞社の動向を知ることができる



本書内容一覽(抄)

- 1952年新聞協会報索引目次
 - 総記―法則/調査研究/教育/署名記事
 - 〈座談会〉進藤次郎/山代 常徳/原四郎/池島 信平/亀井勝一郎
 - 編集一記事/写真/小説/映画/文化娯楽/整理/記者/審査/書籍出版
 - 経営―財政/労働/資材/用紙/販売/広告
 - 工務―技術/電気
 - 国際―在日外国新聞通信社/在外邦字紙/記者/国際連合/アジア/瀋州/ソ連
 - ―地方紙/東京・大阪紙/通信社/業界紙・機関紙/週刊紙誌/学校新聞/放送/輸送
 - 各社情勢―機構/役員/人事/業態/事業
 - 総司令部
 - 新聞協会―理事会/事務局/委員会/事業
 - 〔再刊の辞〕『新聞協会報』命令記一君の雅号は「新聞倫理か」 伊藤 正徳(日)
 - 本新聞協会理事長
 - 用紙難克服への途
 - 新聞の役割 アーネスト・ホーブライト(U.P.東京支局長)
 - 木鐸の威力を! ―新聞畑から新商工大臣
 - 受難のわが新聞界にも行く手に米光―米国記者団・好意の観測
 - 明るく見とおし、陸軍と海軍とは小康―輸送
 - 一方石成の痛手
 - 英文憲法論文募集
 - 夕刊版発行
 - 新聞社側の中央用紙対策委員
 - 〔過問口説〕
 - 〔誹毀〕の未遂 山根 真治郎
 - 新世代・新聞人の責任重く、局長級にも再教育の試み―注目されるアメリカ新聞
 - 学院
 - いい記事賛仰、取材のチャンス―誓の記者の苦心談
 - 資材の獲得強化―代替品の研究
 - 従組のついで
 - 〈協会より共販より〉
 - 〈GHQニューズ〉
 - 広告文化向上のため日本広告会
 - 〔広告〕浄化へ―紐育タイムズ不正一掃の掟十二條
 - 地方第一の構え―新聞共販連盟 発足
 - 〔我らかく望む〕新聞人を育てよ。春山 行夫
 - つらやまし―米国の製紙
 - 目にある好色色、この手で楯玉に、さて新聞紙法は?
 - 〔技術研究〕写真版の美―刷上りの鮮かさ、さてそのコツは?
 - 追放活動を応援
 - 記者会の民主化一段落
 - 岩組の回覧板
 - 新聞界立候補資格申請届出
 - 〈個人消息〉
 - 〈余技展覧〉旅日記にのこる思い出 中山 晴伸(共販経理課長)
 - 地方制改革の案裏裏 1―官僚没落へ、串鐘のつき手は大村さん
 - 〈米国新聞史論70〉紐育タイムズの復興に心血を注いだオックス 小野 秀雄
 - まさに今! 大自然力とジャーナリズムの戦い
 - 前借哲学 高 建子
 - 〈各社人事〉
 - 新聞協会の英断を称賛
 - わが新聞人にも再教育熱―「現場」と大学院へへらへ
 - 全く猛訓練―いい記事生みの悩み
 - 〈二つの問題〉世論の生い立ち 吉原 一真
 - 調印式に見えた―中国記者団長の陳博生氏
 - 新聞協会で幹部と懇談―記者団一行
 - 一部五百元―用紙の悩み深刻
 - 関東大学新聞連盟成る
 - 四国新興新聞会
 - 酒田新聞連盟
 - 〈過問口説〉
 - 〈回顧〉資料・絵画/慶喜とパークス/外人特派員の相チャールズ・ワグマン
 - 杉村 武
 - ハイマン博士を迎え「世論調査」まさに高潮
 - 〈各陣営〉
 - 読者の腹を探る―『新報知』と『富山新聞』の試み
 - アメリカの日刊紙新記録
 - 読者委員会
 - 神港夕刊の美術展覧会
 - 〈推称記事〉「王様の尻にこそ人間愛、新聞センスと涙と
 - 善取見込みの選挙用紙
 - 打開策とこの用紙難いが峠か
 - 紙の増産 割へ努力
 - 〈我らかく望む〉正道でない人気 新聞人よ社会的に腕をのばせよ 春山 行夫(新聞研究者)
 - 残るくまなし通信網
 - 新興紙の浮沈み、廃刊すべし二十紙
 - 休職? 或は退職? ―いごとと立候補する新聞社員
 - 内外新聞の創刊は5月
 - 出版物の洪水で面くらつ「第三種」
 - 新聞界立候補資格申請届出
 - コネスゴとの連絡も緊密に
 - 職場を美しく
 - K君の顔 寺田 英
 - 地方制改革の案裏裏 2―逆巻く難声、特別都市制でも非難的 新川 道郎(新聞記者)
 - 〈新聞人随筆〉ある筆禍 上 竹内順三郎
 - ああ嘉納麗方さんのこと 杉村 武(朝日東京本社出版局長)
 - 選挙と新聞紙の在りかた
 - スーパードン新聞の在りかた
 - 〈二つの問題〉英字紙の使命 長谷川 進一(日本タイムズ編集総務)
 - 春の新聞休刊日
 - 南京の新聞界?
 - 選挙! 各社の報道秘策―通信の貧困は啓発で補つ、帝都夕刊紙の戦法
 - まず寄稿家を動員して特色―地方大新聞の奥の手
 - モット博士来る―わが新聞指導のため
 - 〈技術研究3〉狂つ調子―修整の特異さて損な新聞の製版
 - 〔新聞〕の起り
 - 働く者慰安の夕
 - 販売店の新発足―一括拭いた全体操作
 - 〈米国〕ジャーナリスト気質 上 1―本の虫嫌い、大阪弁も上手です 大野 欣一